



School Volunteer KSSVCだより

Kobayashi Support Center

学校向け

小林市教育委員会社会教育課 KSSVC 事務局 (TEL22-7912)

みなさん こんにちは 小林市に来られた先生方 はじめまして！

小林市のすべての小・中学校で地域学校協働活動推進事業が始まって11年目の春。昨年に続き、コロナ禍の中で新年度を迎えました。事務局では、学校の状況に配慮しながら、取材やボランティアの紹介等の業務を行って参ります。「3密」対策で活動が制限されますが、たくさんのお会いを楽しみにしています。

さて、第1号恒例の自己紹介を今年もお届けします。



Q1 KSSVC って何ですか？

「こばやしスクールサポートボランティアセンター」です。KSSVC 事業は小林方式の「地域学校協働活動推進事業」です。

Q2 事業のねらいは？



保護者や地域住民、関係諸機関が連携・協働し、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、地域と学校がパートナーとして「学校を核とした地域づくり」を目指します。

Q3 どんなことに取り組んでいますか？

小林中央公民館内に事務局があり、アドバイザー2名(甲斐・堀)が在籍しています。

- ☆ ボランティアを募集して学校へ紹介。学校からのボランティアの依頼にも応じます。
- ☆ 地域学校協働活動取材させていただきます。取材後、掲示用の写真(A4版)を学校に届け、中央公民館にも掲示します。(昨年度は190件を取材)
- ☆ 「KSSVC だより」を発行し、活動の様子を広く紹介します。昨年度は学校向けを24回、市内回覧用を12回それぞれ発行しました。
- ☆ 協働活動の実績(活動件数・ボランティアの人数)を、年に1度集約します。
- ☆ 各学校の取組をまとめた「実践記録集」と事務局の業務をまとめた「1年間のあゆみ」を年度末に作成し、学校と関係諸機関に届けます。
- ☆ 学校・地域コーディネーターの研修会を、年に2回開催します。(昨年度は未実施)

Q4 取材の方法・対象は？



2か月に1度提出していただく計画表を基に、事前に電話をして訪問します。対象は地域と学校が共に行う取組、学校支援ボランティアの活動、外部講師による授業や教室、社会科見学などです。(3・4月の計画はいただいています)

Q5 協働活動事業で期待される効果は？

- 【学校では…】
- ① 学校の教育活動の充実 (100%)
 - ② 教職員が子どもと向き合う時間の増加 (66.7%)
 - ③ 地域に支えられ、応援される学校づくり (100%)
 - ④ 地域に愛着を持ち、地域に貢献したいと考える人材の育成 (90.5%)

数字は小・中学校21校の肯定的評価「そう思う+どちらかというと思う」の割合です。(H.30.11月調査)

- 【地域では…】
- ① 地域住民の生きがいと自己実現 (83.3%)
 - ② 地域住民による社会参画の広がり (58.3%)
 - ③ 地域社会の活性化(91.7%)
 - ④ 学校と子どもたちへの理解の深まり(91.7%)

第1回研修会(R元.9.2)でのボランティアの皆さんの肯定的評価です。



実践記録集の「課題と方向性」の中で、多くの学校が挙げていたのが「地域や関係機関との連携」です。連携にもいろいろありますが、地域学校協働活動では「Win-Winの関係(学校と地域双方に得がある良好な関係)」が理想だと言われています。具体的には…

参加した方々が「子どもたちや学校から元気をもらった」と感じる活動もそんな関係のひとつでしょう。この「元気」がたくさん集まると、地域を生き生きさせるエネルギーになると思います。



2月と3月の活動です。(学年は旧学年)

永久津小 手話講座

5年生



講師は小林手話サークル「木の实会」のお二人。耳の聞こえない人の生活や伝え合う方法を学習した後、指文字と簡単な手話での自己紹介に挑戦しました。子どもたちは、真剣に、そして楽しく手話に触れながら、その大切さや必要性を理解していました。

【児童代表お礼の言葉より】学んだことを家族にも話して、手話を使っていきたいです。

南小学習発表会

4年生



ソーラン節

参観日に文化会館で実施。たくさんの方の前で、合唱・自作の詩「ハッピー小林」・5年生の目標・家族への感謝の言葉を披露しました。詩は小林の人や自然の良さ、4年生の良さを織り込み、学年全員で作りました。

【児童のあいさつ・曲の紹介より】 ◆発表会ができるので、とてもうれしいです。 ◆見どころは歌声とかけ声です。 ◆実行委員会を中心に学年全員で作った詩です。 ◆これからもみんなでひとつになって、いろいろなことに挑戦します。 ※進行は児童が行いました。

西小林中 先輩の声を聞く会

2年生



小林(普通)・小林秀峰(機械・経営情報・福祉)・飯野(普通・生活文化)の1・2年生6名

県立入試の日に実施している恒例行事です。後輩たちのために、学校の特色・授業の様子・学校行事・取れる資格・就職や進学のことなどを話してくれました。

の様子・学校行事・取れる資格・就職や進学のことなどを話してくれました。

【◆アドバイス ■お礼の言葉】

- ◆高校は申し込んで参加する活動が多い。自主性・積極性が大事
- ◆与えられたことだけでなく、自分がしたいことを考えてほしい。
- ◆地域の魅力を発信する活動もしている。

◆評価はテストの得点の7割プラス平常点で決まる。平常点は課題の提出、授業中の態度など。

◆野球部の遠征などで親に世話になっているのがんばりたい。 ◆目標は変わってもいい。高校で終わりではない。 ◆成績だけで、高校を選ばないでほしい。

◆先生に質問するなど、自分から情報を取りに行くようにしている。

■先輩方のお話を自分の生活に役立てたいです。

幸ヶ丘小「パラオ環野」見学

生駒高原にあります。



館長の久保松雄さんが展示品の説明をしてくださいました。パラオの文化、日本とパラオの友好の歴史、戦争の悲惨さなど、体験を交えたお話に、子どもたちと先生方は熱心に聞き入っていました。「戦争は絶対したらいかんよ」と繰り返す久保さんの言葉が心に染みしました。

久保さんは6歳の時に家族と共にパラオに移住。戦後、10歳で環野(たまきの)地区に入植しました。

最近、ホームページを立ちあげ、それを見た方の電話やメール、訪問が増えているそうです。去年はパラオ大使も訪れました。「パラオ環野」で検索できます。

細野中 認知症サポーター養成講座

3年生



小林地域包括支援センターの皆さん

講話やワークショップ、紙芝居「千の恩をあたと成し」を通して、認知症への理解を深めました。主な内容は…

- ◆認知症とは？ ◆認知症と物忘れの違い
- ◆周囲の気づきと対応 ◆軽度認知障害

【お礼の言葉】 3つの「ない」と7つのポイントを生かして、家族や困っている人を助けます。

- 【3つの「ない」】 ◆驚かせない ◆急がせない ◆プライドを傷つけない

- 【7つのポイント】 ①まずは見守る ②余裕を持って対応する ③声をかける時は1人で ④後ろから声をかけない ⑤相手の目線に合わせてやさしい口調で ⑥おだやかに、はっきりした滑舌で ⑦相手の言葉に耳を傾けてゆっくりと対応

事務局より

●KSSVC だよりでは、講師のお話に加えて、子どもたちの質問・感想・お礼の言葉などをたくさん紹介したいと思っています。活動での子どもたちの「声」を楽しみにしています。

●小林市教育委員会では、地域学校協働活動に係る保険をすべての学校に掛けています。詳しくは昨年配布したマニュアル「学校支援者保証制度」をご覧ください。今年度の方は、後日お届けします。

●学校間共有の事務局のフォルダには、過去のKSSVCだよりやボランティアの名簿、実践記録集の原稿などが入っています。ご活用ください。

●学校間共有の事務局のフォルダには、過去のKSSVCだよりやボランティアの名簿、実践記録集の原稿などが入っています。ご活用ください。

場所は… 学校間共有 > 00市教委 > 社会教育課 > KSSVC事務局(地域学校協働活動推進事業) ネットでも「たより」が読めます。(「KSSVC」で検索)



School Volunteer KSSVCだより

Kobayashi Support Center

学校向け

小林市教育委員会社会教育課 KSSVC 事務局 (TEL22-7912)

この時期、KSSVC事務局が一番多く取材するのは？

答は「交通(安全)教室」。4月だけでも9件の予定があります。どこの学校も同じでは？と思われるかもしれませんが、でも、学校規模や児童生徒の様子、先生方の動き、警察署(交通安全協会)や自動車学校の皆さんの指導方法など、異なる要素がたくさんあるのです。

子どもたちを引き付ける工夫や校区の状況を踏まえた内容など、学校ごとに特色があり、毎年、興味深く参観しています。

この1年、コロナと学校の状況をみながら、できる限りたくさんの活動取材させていただきます。よろしくお願ひします。

4月のある日曜日、通学路を並んで歩く親子を何組も見かけました。中には、ランドセルを背負った姿も…。新生生の予行練習だったのですね。子どもたちの安全のために、家庭も学校も、いつも以上に配慮が必要な季節です。「新年度の始まりは、通い慣れていない通勤者も多いので、車には十分気をつけてください」と、以前、警察の方から聞きました。



昨年の交通教室(三松小)

地域学校協働活動の課題と方向性

昨年9月、標記のテーマで学校からの意見をまとめ、結果をお知らせしました。回答が多かった項目について、事務局の考察と提案も含め、再度紹介します。「今年度はこの段階からのスタート」だどご理解いただければ幸いです。

① ボランティアの高齢化と固定化への対策

新規のボランティアを募集する学校が増えています。学校だより、回覧板、メール等々、さまざまな方法がありますが、「学校に関わりのある方を通じて直接お願ひの方が確実」という校長先生の意見もあります。

待っているだけではボランティアは集まらないという思いから、募集の際に「高齢者の生きがいづくりや地域の活性化のためにも協働活動は必要です」と、繰り返し発信している学校もあります。

② 既存の教育活動への外部人材・施設等の活用

学校から紹介していただいた事例が最も多かった項目です。地域の人材やその道の専門家の参画で児童生徒の活動の幅が広がり、豊かな学びが生まれます。だからこそ、多くの学校が実践しているのでしょう。今後、新たな授業や行事での取組が求められています。「新規の活動は教育課程や授業時数の関係で難しい」という声も聞きます。でも、課題を工夫して解決したからこそ、長年続いている活動もあります。各学校のアイデア豊かな取組を楽しみにしています。

③ 緩やかなネットワークの構築

※ 個人や団体が任意でつながるネットワーク

◆ 「地域で子どもを育てる」には、どんな子に育ててほしいのかを協議し、共通理解する場が必要です。まちづくり協議会など、地域の組織や団体に学校の代表が加わるのは、大変意義のあることだと思います。

◆ 「車椅子体験や高齢者疑似体験の場に地域の高齢者が参加してくださるといいですね」。社会福祉協議会の方の言葉です。認知症サポーター養成講座に、地域の方が認知症の役で協力している学校もあります。

◆ 学校がお世話になっている地域の催しに協力するのは自然な流れです。しかし、過度な協力は児童生徒や先生方の負担になり、イベントを消化するだけの取組に終わってしまう危惧も感じています。参加者が満足感を得、長く続けるためには、学校内はもちろんのこと、地域住民との共通理解・共通認識が必要でしょう。

④ 学習支援ボランティアと教職員の働き方改革

◆ 見守り隊や赤ペン先生等の取組は、教職員の負担を軽減すると同時に、「学校の役に立ちたい」と願う方々に活躍できる場を提供することにもなっています。そして、その方の生きがいにつながり、ひいては地域を活性化するきっかけになることでしょう。

◆ 学校の「応援団」はたくさんいます。要は、そういう方とどうつながるかです。「手伝えることがあれば言ってほしい」という話は、地域の方からよく聞きます。

事務局でもボランティアの募集と紹介は続けていきますが、学校からの直接のお願ひや働きかけがより効果があると思います。



まる付けのボランティア(野尻小)

東方中

昨年度末の取組（学年は旧）

3年生 小林こすもす支援学校との交流会



がんばれ～！

中学校に併設された支援学校中学部の皆さんと、卒業を前に思い出作りをしました。模造紙に一人ずつ手形を押して共同の作品を作ったり、ボーリングでチームの得点を競ったりして楽しいひとときを過ごしました。

新型コロナの影響で、交流する時間がほとんどとれずに寂しい思いをしていたのですが、会場には、1年間の残念な思いを吹き飛ばすかのような笑顔や歓声が溢れていました。

【生徒代表のあいさつより】 ◆ 東方中の皆さん、卒業してからも、どこかで会ったら、声をかけてください。

◆ 支援学校の皆さん、多くの思い出を作ってください、ありがとうございました。

地域へ花を届ける活動



花を届けてくださることに感謝しています。

例年、生徒たちが種から育てた花を、地域の一人暮らしの高齢者に直接届けています。コロナ禍の今年は区長さんや地域のボランティアの方々をお願いしました。

直接お会いしてお話をするにはできませんが、生徒たちが花に込めた思いは、きっと届くことでしょう。

市内の小中学校が行っている地域への貢献活動には、高齢者宅の窓ふきや除草作業、神社の清掃、地域の行事での歌や演奏、祭りの準備や後片付けなどがあります。また、地域のサロンとして空き教室を開放したり、図書の貸出をしている事例も見られます。

今は中断しているものもありますが、「地域の中の学校の役割」について考えるきっかけを与えてくれます。



東方中・永久津中 ライフプランニング



講師：ライフプランナー
5名（ソニー生命）



1年生の合同授業。夫婦と子供2人の家族をモデルに人生設計をしました。働き方や住居、教育費などに関わる選択をした後で家計の状況を見てみると、人生の終盤には、すべての

グループが赤字になっていました。（会場は東方中）

その後、講師のアドバイスで家計を改善。共働きで収入アップ、小遣いを減らし、家族旅行は？持ち家は？など、夢と現実のバランスや支出の時期を考えながらアイデアを出し合いました。

【講師の一言】 夢を実現するには計画的に生きること。人生は「準備」と「早めに気づくこと」が大切です。

須木中 性教育講話

上原さん：助産師・宮崎
か母(ぼ)ちやつ子くらぶ



受精卵は3か月で25gになります。

旧3年生

【主な内容】 ◆ 体の性・心の性
◆ 男子と女子の心の違い
◆ 人それぞれの性についての考え方 ◆ 性の二面性(光と影)
◆ 今、あなたが妊娠したら？
◆ 予期しない妊娠を避けるには
◆ 性に関する犯罪 ◆ デートDV
◆ 性被害への具体的な対処法
◆ 性感染症 ◆ SNS との付き合い方 ◆ 身につけてほしい力
※ 今の自分を大切に！



上原さんは33年間病院に勤め、その後開業助産師として、女性のあらゆる悩みに応じた相談や講演活動をしています。

お話は胎児の成長を模した人形を紹介することから始まりました。妊娠から出産までの経過、性に関する事件やトラブルについての具体的なお話に、生徒たちは真剣な表情で耳を傾けていました。（取材は3月11日。授業前、東日本大震災の犠牲者に全員で黙とうを捧げました）

【お礼の言葉より】 自分の性への理解が深まりました。相手の性も大切にします。





School Volunteer KSSVCだより

Kobayashi Support Center

小林市教育委員会社会教育課 KSSVC 事務局 (TEL22-7912)

学校向け

平成16年頃、児童が被害に遭う事件が全国で相次ぎました。それを機に三松校区の退職校長会が見守り隊を結成し、それが小林市の組織的な見守り活動の始まりだと、元校長先生から聞いたことがあります。

昨年度、市内で見守り活動に参加したボランティアは延べ17,138人。長年続けている方もおり、小学校入学から中学・高校卒業まで、同じ児童生徒と挨拶を交わしている方もいらっしゃいます。子どもたちの安全はもちろん、一人ひとりの成長も見守っているのです。

東方中「天使の羽」 貢納式

旧3年生



赤木さん



みんなで心を込めて描きました。研修館に飾ってください。

すばらしい作品を、ありがとうございます。

東方研修館館長、赤木さんの「インスタ映える絵を」という注文を受け、旧3年生全員で制作しました。指導は美術の押領司先生。

卒業を前にしたこの日、学校で貢納式を行いました。赤木さんは、お礼の言葉とともに、「支えてくれる人が30人いると夢が叶うそうです」と、新しい世界へ踏み出す3年生に、励ましの言葉を贈りました。

小林小 租税教室

旧6年生



山下さん(小林法人会青年部)



チームの発表

前半は資料やアニメを通して税金の種類と役割について学びました。「小学生1人に使われる1か月の税金は？」というクイズもあり、正解は7万5千円。年間90万円になります。

後半は「まちづくりワーク」。チームでテーマを決め、600億ZENの予算で施設を整備し街を作ります。みんなが笑顔になれる街、安全で楽しい街、観光の町など、グループでテーマを決め、法人会の皆さんのアドバイスを受けながら税金の有効な使い道を考えました。

【お礼の言葉】身近にある税金について詳しく知ることができました。お体を大切に、お仕事をがんばってください。



「まちづくりワーク」は宮崎法人会青年部が考案したゲームです。全国大会で優秀賞を獲得しています。

細野中 手話講座

旧3年生



手話サークル「木の实(このみ)会」の皆さん。



初めに、聞こえない人の生活とコミュニケーションの手段について考え、その一つであるジェスチャーを体験。「おはよう」「こんにちは」「ありがとう」「すみません」など、人間関係をスムーズにする手話表現も学びました。

その後、木の实会の皆さん4名に教えてもらいながら手話と指文字を使った自己紹介を繰り返し練習しました。短い時間でしたが、真剣で積極的な取組を通して、生徒全員が手話での簡単な表現を身に付けることができました。



交通(安全)教室

紙屋中



進路変更



一時停止



自転車指導



スラローム

横断歩道や障害物回避、見通しの悪い角など、通学路を想定したコースをグラウンドに作り、自校方式で実施。それぞれのチェックポイントで、先生方が指導しました。自転車点検の項目と方法も再確認しました。

紙屋中の記事は、送っていただいた写真と計画案でまとめました。行事が重なり訪問できないこともあり、データがあると助かります。写真や実施要項などをKSSVCまたは各学校のフォルダに入れ、連絡をいただくと取り出して使わせていただきます。



急停車



西小林中

踏切



見通しの悪い角



西小林中も自校方式で実施。テーマは「命を守る運転」です。コースには踏切が描かれていました。学校近くの踏切は、遮断機はありますが見通しが悪く、先生方も心配している危険箇所の一つです。

4月から条例で義務化された自転車保険と自転車による死亡事故の話もあり、生徒たちは真剣に耳を傾けていました。終了後は教室で感想を書き、活動を振り返りました。



須木小



【1~3年生】信号機のある横断歩道の渡り方



【4~6年生】自転車のルールと点検

小林警察署と交通安全協会の皆さん

雨天のため屋内で実施。「事故に遭わない・事故を起こさない」が合言葉です。下学年は信号と車の確認、上学年は点検の仕方や反射板の取り付けなどについて熱心に学んでいました。

【お礼の言葉】今日の教室で、新たに分かったことがあって、よかったです。

南小 オリンピック集会 ~とどけ 私たちの思い~



聖火ランナーに夢をたくして



たすきを託す最終走者の6年生



福留さん(元南小校長)とアナウンスを務めた児童たち

学級の代表が、1年生から順番にトーチとたすきを繋ぎました。トーチは校長先生の手作り、たすきには全校児童の夢・希望・願いが…。

たすきを受け取った福留さんは、「みなさんの思いと一緒に走ります」と力強く宣言。その後、校歌の歌詞「めげず たゆまず…」などを例にとりながら、児童への願いを語りました。

4月26日、小林市の聖火リレーで、たすきの写真をポケットに入れ、福留さんは走りました。

事務局より

コロナ禍で、外部講師がいない活動も増えており、「自校方式」として紹介しています。各学校の特色ある活動を伝えるのも事務局の役割だと考えています。





School Volunteer KSSVC だより

Kobayashi Support Center

小林市教育委員会社会教育課 KSSVC 事務局 (TEL22-7912)

学校向け

いくつかの学校で読み聞かせを参観させていただいています。入学して初めての経験に興味津々の小学1年生、真剣な表情でうなずきながら聴いている中学生など、物語の世界に夢中になっている様子がよく分かります。

読み聞かせは15分ほどの想像の世界ですが、登場人物や読んでくださる方との出会いは、ストレスの多い現実世界での「ほっとするひととき」です。そして、子どもたちの成長に大きな影響を与える貴重な時間だと言えます。

コロナ禍で「チャイルドライン」(子どもの悩みに応じる電話相談)に寄せられる相談が増えているそうです。学校でも、子どもたちの心のケアにさまざまな手立てを講じていることでしょう。

「読み聞かせ」の風景

主に写真で紹介しします。



三松中



保護者と保護者OB。月1回



須木小

「あすなる会」と市立図書館須木分館。月2回実施



小林中

1・2年生



東方小

手あそびうた



「小林子ども遊学会」。月1回

読み聞かせのボランティアは足りていますか？



ボランティア募集の話をも、訪問した学校でよく伺います。「ボランティアの高齢化と固定化」が小林市の課題のひとつだと、第2号でお伝えしました。

「読み聞かせ」も例外ではありません。読み手が足りないというサークルもあります。事務局でも、読み聞かせの意義(子どもたちへの教育的効果と本人の生きがいづくりなど)を紹介しながら、市民向けの KSSVC だより等で引き続き募集していきます。

小林市の「読み聞かせ」は歴史があり、全国的にも進んだ取組です。学校から保護者・地域への発信も、よろしくお願いします。



「よんみろ会」(保護者と保護者OB)。月1回



東方小

三松中

図書館オリエンテーション

永久津小

4年生



たくさん読んで心に栄養を与えてくださいね。



借りて…

大牟田さん(学校図書館支援センター)



早速読みました。

細野中



川野さん(市立図書館)



1年生



川野さん「背伸びをせずに、自分に合う本を探してみましょう」

本への興味がわきました。いろいろ読んでみたいと思います。



学校図書館のしくみやルールを学習し、より一層本に親しむ心を育てる取組です。本の分類(背ラベルの意味)や取り扱いの注意、著作権のお話、子どもたちは興味深く聞き入っていました。おすすめの本も紹介してもらいました。

交通安全教室

指導は小林警察署と交通安全協会の皆さんです。



1年生は体育館、2・3年生はリモートで

三松中



自転車事故の現状を聞き、交通ルールや自転車保険についてのお話と自転車事故を再現したDVDを通して、事故防止の意識を高めました。
【お礼の言葉】多くの行事が中止になる中、リモートでお話が聞けて良かったです。自転車保険の確認をして、被害者にも加害者にもならないよう気をつけます。

小林警察署管内(小林市・高原町)では年間約50件の自転車事故があり、その多くが中高生だそうです。

細野小



時速40Km



反射板を付けましょう。



自転車の乗り方の確認ができ、とても勉強になりました。

横断歩道の渡り方と自転車の乗り方、交通ルールについて低・中・高の学年ごとに学びました。ダミー人形が車に跳ね飛ばされる実験では、衝撃の大きさに驚き、子どもたちは交通事故の怖さを改めて感じていました。

紙屋中 新入生歓迎会

かわいい1年生をよろしくお願ひします。



ボランティア活動などに一緒に取り組みましょう。



紙屋中では5名の新入生を迎え、生徒会の企画・運営で歓迎会を実施。生徒会活動と役員の紹介、学年や部活動紹介などがありました。

「みんなで踊ろう」のコーナーでは、代表の生徒がお手本を見せた後、先生方も加わってパプリカを踊り、盛り上がりました。

今の時期、密を避ける対策を取り、いろいろな形で歓迎の気持ちを伝える催しが多くの学校で行われています。





School Volunteer KSSVCだより

Kobayashi Support Center

小林市教育委員会社会教育課 KSSVC 事務局 (TEL22-7912)

学校向け

中学生の頃、「本を読みなさい」と、集会の度に言う図書室担当の先生(男性)がいました。当時は部活漬の日々。本を借りて読むこともなく、いつも聞き流していたものです。

ところが、大人になってから、その先生の顔と「本を読め」のメッセージをよく思い出します。年齢とともに関心の対象や価値観も変わるということでしょう。

子どもの頃は気にも留めなかったひと言が、ずっと後になって、ふとよみがえることがよくあります。



図書館オリエンテーション



6年生

本の内容と返す場所が背ラベルで分かります。

野尻小



【説明】川野さん(市立図書館)・田原さん(図書館支援員)

栗須小



〇×クイズ

1年生



【説明】大牟田さん(学校図書館支援センター) 松吉さん(図書館支援員)



1年生



三松小



5年生



この絵が使えるようになりました。

川野さん 著作権の話

内容は、本の分類と探し方、扱う時の注意、著作権、本の紹介などです。分類表をバス停に見立てたパネルや、「本たち」が丁寧な扱いを呼びかける絵本などを用いた説明に、子どもたちは興味深く聞き入っていました。

授業の後、本を探したり、借りて読んでいる一人ひとりの表情からは、読書への意欲がさらに高まっている様子が伺えました。「読みたい!」と思わせる工夫がいっぱいの図書館オリエンテーションでした。



交通安全教室

講師は小林警察署と交通安全協会の皆さん

須木中



スピードの出しすぎです。



「ながら運転」が原因だね。

代表生徒がやってみました。上手でした!

テーマは「話し合い活動を通しての事故防止」。自転車が加害者になった事故のDVDを見て、学年ごとに原因を話し合い、代表が発表。自転車点検の方法と見通しの悪い交差点の通行についても確認しました。



東方中



左右確認



横断歩道

最初はDVDと講話で学習。その後、運動場に作られたコースで実技を行いました。見通しの悪い交差点や駐車中の車を避けての運転を通して、「運転に集中すること」と「確認すること」が無事故につながることを再認識できました。



野尻小

これが人だったら？



自転車のルールと点検



横断歩道の渡り方

1～3年生と4～6年生に分かれて実施。どちらも、時速40Kmで人形をはねる実験で始めました。「これが人だったら？」という警察官の問いかけに、「大けが」や「死んでしまう」という声がたくさん上がっていました。



三松小



自分の命は自分で守ります。



胸に手を当て、活動の振り返り

雨のため、体育館で1年生のみ実施。「保育園や幼稚園でやったことを思い出しましょう」という警察官のお話の後、横断歩道の渡り方を、最初はグループで、次に一人ずつ練習しました。

須木中 オンライン講演会

3年生



丸尾さん



ありがとうございました。

バリ島在住の会社経営者、丸尾孝俊さんに、生い立ちや生き方についてオンラインで聞きました。質問の時間には、貧しくて困ったこと、大切にしているもの、これからの夢などについて丁寧に答えてくださり、「お手伝いから始まる『自分にできること』を増やしてほしい」と、生徒たちにメッセージを送りました。

丸尾さんは1966年大阪生まれ。3歳で母親と離別。貧しい子ども時代を過ごし、さまざまな職業を経て、バリ島で起業し成功。現在はバリを中心に、アジアで31のグループ会社を経営。同時に、学校・病院を寄付、伝統芸能への資金援助、52人の孤児の里親になるなど、困っている人には惜しみなく手を差し伸べています。



紙屋小 ボランティア対面式



よろしくお願いします。



【出席者】地域コーディネーター・紙屋城攻め踊り保存会・読み聞かせ「たんぽぽ」・更生保護女性会・スクールサポーター

子どもたちは、学年ごとに立ってあいさつ。ボランティアの皆さんからは自己紹介に加え、子どもたちへのメッセージをいただきました。お顔やお名前を知ったことで、より親しみがわき、これから一緒に学習するよいきっかけになりました。



School Volunteer KSSVCだより

Kobayashi Support Center

小林市教育委員会社会教育課 KSSVC 事務局 (TEL22-7912)

学校向け

小学校低学年の子どもたち数名が近所で遊んでいました。突然「キンキュウジタイセンゲン」という大きな声が…。どんな会話だったのかは分かりませんが、声と同時に自転車をこぎ始めたところを見ると、何かの合図で使っていたのかもしれない。ずいぶん身近な言葉になってしまったと、残念ながら思いました。

「三密」や「ソーシャルディスタンス」など、コロナがなければ子どもたちが使うこともなかった言葉が身の回りにあふれています。

野尻小 ボランティア集会

1年間、よろしく
お願いします。



棒踊り保存会と「たんぼぼ」(読み聞かせ)



指導を始めて22年になります。

拍手でお迎え、拍手でお送りました。

例年はボランティアの皆さん全員に案内をしていますが、今年は2団体の代表の方だけに来ていただきました。「かえるの話」という楽しくて不思議なお話や、「420年続いている踊りを踊ることに誇りをもってほしいです。いっしょに頑張りましょう」とのメッセージもあり、子どもたちは、これから始まる活動を心待ちにしているようでした。

野尻中 安全教育

交通安全教室



小林警察署と交通安全協会の皆さん

左よし!

DVDの視聴と講話、実技を通して学習。主な内容は自転車のルール・自転車保険・自転車の点検方法・見通しの悪い交差点の安全確認です。

【お礼の言葉】 教えていただいたことを守って、自転車を運転したいと思います。



不審者対応訓練



市来さん・栗須さん
(小林警察署生活安全課)

当日は雨。密になる体育館への避難を避け、リモートで実施しました。安全の基本・小林市の声かけ事案・身を守る方法・警察官の仕事などのお話があり、生徒たちはワークシートに記入しながら熱心に聞いていました。その後、感想文を書いて授業を振り返り、職員はお2人を講師に、不審者対応の研修会を実施しました。

【栗須さん】小学生の頃、知らない人に声をかけられて怖かったことが、警察官になったきっかけです。

【お礼の言葉】冷静に対応することやみんなで協力することを学びました。これからの生活に役立てます。

西小林小 交通安全教室

2学年ずつ実施



向こうの車が見える?



後方確認

1・2年生は信号の見方と横断歩道の渡り方。最初は指導員さんと、次は1人で渡りました。3～6年生は自転車点検と正しい乗り方・交通ルールについて、講話と実技で学びました。

【お礼の言葉】 ◆ 今日習ったことを守って、横断歩道を渡ります。 ◆ 今日の授業で自転車に慣れました。

幸ヶ丘小 梅ちぎり

1～4年生も後で加わりました。



大きい
です!



【1～4年生】
さつまいもの苗植

地域の方に準備していただいた畑に、いもの苗を植えました。3・4年生は慣れた手つきで、1・2年生も、教えてもらいながら熱心に取り組みました。その後、梅ちぎりに参加。5・6年生が採りきれなかった梅を、先生方が竹竿で落とし、歓声を上げながら拾っていました。

南小 校区内史跡巡り

6年生



案内：小林ガイドボランティア協会



南島田の田の神さあ

あいにくの雨でしたが、子どもたちはガイドの皆さんと一緒に元気に歩いて回りました。身近にある史跡の説明に、驚いたり感心したりしながら熱心にメモを取り、小林の歴史や文化を学んでいました。

雨で見学時間が少なくなったため、学校に帰ってから補足の説明をしてもらいました。

- ◆ 見学したのは… 中原石塔・南島田の田の神さあ 旧国営アルコール工場への引き込み線跡など

プール清掃

紙屋小 5・6年生



5月末と6月初め、紙屋小と栗須小でプール清掃が行われました。両校とも、毎年、地域の消防団の皆さんが協力してくださっています。



栗須小 6年生

放水体験

底に溜まった泥や壁面のコケを、消火用のホースで洗い流し、たわしやデッキブラシできれいにしていきます。

多くの行事が制限されている中、友だちと協力しながら生き生きと活動する両校の児童の姿がとても印象的でした。

東方中 避難訓練(地震)

小林こすもす支援学校と合同で実施



東日本大震災や熊本地震での救助や支援活動についてのお話



後藤所長

地震発生後、机の下に隠れて身を守り、安全を確認しながら運動場へ。全員が慌てず迅速に行動できました。その後は、自衛隊小林地域事務所の後藤所長から、災害派遣の様子や日頃の備えの大切さなどのお話を聞き、さらに防災意識を高めました。

KSSVC 研修会は、今回も中止します



学校と地域のコーディネーターが参加し、事例発表と協議を行う研修会。例年7月、「協働の学校づくり」推進協議会の後で実施しています。昨年度は中止し、「地域学校協働活動の課題と方向性」をテーマに、学校からの意見を集約し、紹介しました。今年度も、KSSVCだより第2号で紹介した下記の項目について、コロナ禍での工夫も含め、ご意見をお聞きしたいと考えています。(すべての項目にお答えいただく必要はありません)

- ① ボランティアの高齢化と固定化への対策
 - ・ ボランティアの募集や依頼の工夫
- ② 教育活動への外部人材・施設等の活用
 - ・ どんな活動にどのような人や施設を活用したか
- ③ 緩やかなネットワークの構築
 - ・ 組織や団体との連携
- ④ 学習支援ボランティアと教職員の働き方改革
 - ・ 学校支援ボランティアの実践例

7月上旬には文書をお届けします。ご協力をよろしくお願いします。

